

絵本大賞
(子どもの部)

「むっちゃんのおしょくどいじや」

荒川区立赤土小学校二年

杉山 惟良

やなぎ田くにお先生こんにちは。ぼくは、「むっちゃんのおしょくどいじや」という本を読みました。この本をえらんだりゆうは、しゅ人公とぼくがにていると思ったからです。

この本のしゅ人公は、むっちゃんという男の子です。そして、むっちゃんには、たまごときゆうにゆうのアレルギーがあります。ぼくも同じアレルギーをもっていきます。

この本は、アレルギーのあるむっちゃんがしよ

くどいじやで、どつぶつたちごはんをたべるお話です。

ぼくがこの本を読んで「ばん心にのこったところは「ぼくはアレルギーだから、たまごときゆうにゆうがたべられないの」とむっちゃんが、大きなこえを出したところです。ぼくは、これを読んだときにぼくも同じ体けんをしたことがあるからです。お友だちと同じおかしやアイスをたべられなくて、くやしくて、かなしい気もちになりました。なので、ぼくはむっちゃんの気もちがわかります。でも、この本を読んだら、アレルギーがいやなことではないと、気づきました。なぜかという、あしかやペリカンは「魚」だけ、ライオンは「肉」だけ、ひつじは「草」だけしかたべられませんか。なので、ぼくにたべられないものがあってもし

いのだと思いました。ぼくは、ぼくの体にあうたべものをつかって、おかあさんやきゅうしょくの人がつくってくれているので、とても「ありがとう」という気もちになりました。ぼくは、この本を読んでアレルギーは、気をつければ、ごはんがもっとおいしく、これからは、つくってくれた人の気もちを考えて、のこさずにたべるようにがんばろうと思いました。

柳田邦男先生からのメッセージ

〔大賞〕

杉山惟良さんへ

何かとくべつのためものに対して、からだがアレルギーの反のうをおこすのは、つらいですね。ゆ

らさんは、たまごときゅうにゅうに対して、アレルギー反のうをおこすというのです。

子どもならだれでも大すきなおかしやアイスは、たいていたまごやきゅうにゅうをいれてつくってありますから、ゆらさんはたべることができない。

「くやくして、かなしい気もちになったことがあります」と書いています。くやくしてかなしいという気もち、よくわかります。

しかし、ゆらさんは、『むっちゃんのしょくどうしゃ』という絵本をよんで、とてもだいじなことに気づいた。絵本の主人公のむっちゃんがしょくどうしゃにのって、いろいろな動物たちとごはんを食べるとき、大きなこえで、はずかしがらないで、

「ぼくはアレルギーだから、たまごときゅうにゅうがたべられないの」というと、どうぶつたちも、

それぞれにたべられないものがある、たべられるものがきまっていると、つきつきにいうのですね。たべられるのは――

あしかやペリカンは、「魚」だけ。

ライオンは「肉」だけ。

ひつじは「草」だけ。

そこでゆらさんは、きづいたのですね。

「ぼくにたべられないものがあるってもいいのだ」と。

すぐくだいじな気づきです！

ひとはひとりひとり、かおでもからだでも、すこしずつちがっていますよね。まったくおなじかおの人っていません。せかいをみると、かおやからだのひふのいろは、白っぽい人、あかっぽい人、くろっぽい人など、いろいろです。また、目の見えな

い人や耳のきこえない人、うまくしゃべれない人、手や足をじゆうにうごかせない人など、しょうがいのある人がすくなくありません。じぶんでそうなりたくてなつたわけではないのに、ひふのいろがくろっぽかったり、しょうがいがあったりすると、まわりの人たちから、いじめられたりさべつされたりすることが多いです。

アレルギーだって、おなじです。学校のきゆうしよくで、たまごやぎゆうをのこしたら、何もしらないともだちからわらわれたりいじめられたりするかもしれない。でも、ともだちにアレルギーのことをただしく理解（りかい）してもらえば、ともだちはわらったりいじめたりはしないでしよう。

みんなに理解してもらうには、アレルギーのこ

とを、かくさないで、じぶんからはっきりとせつめいすることも、だいじなことです。ゆらさんは、絵本のむっちゃんと同じように、くやしいけれど自分がたべられないものをみんなにいったのですね。勇気（ゆうき）をだしたのですね。私は感動しました。

しかも、絵本を読んだことで、「アレルギーはいやなことではない」と思えるようになったとのこと。それだけでなくおかあさんや学校のきゅうしよくの人が、ゆらさんのからだにあうメニューをかんがえてくれることに、「ありがとう」というかんしゃの気もちまで書いています。

ゆらさんのおたよりは、ゆらさんが一さつの絵本を読んだことから、とてもだいじなことに気づき、どのようにこころのもちかたがかわったかを、

感動的に書いています。そこに書かれていることは、いま世界じゅうでぎろんされているいろいろなきょうぶをどうすればなくせるかという問題にもつながることです。二年生という幼さで、とてもだいじなことを書いてくれたゆらさんに「大賞」を贈りたいと思いました。